

学びの導入

なぜ『海と生きる』なんだろう？

気仙沼市は、水産業と水産加工業が盛んな港町です。世界三大漁場の一つである三陸沖の豊かな漁場をかかえ、カツオやマグロ、サンマなど多くの魚を水揚げする国内有数の漁業基地として栄えてきました。自然、環境、産業、食、文化、観光など、気仙沼で生活するわたしたちにとって「海」はとても身近なものであり、欠かせないものの一つになっています。

『海と生きる』。これは、震災から力強く立ち上がろう、魅力あふれる気仙沼にしていこうという市民みんなの願いと決意が込められたキャッチフレーズです。気仙沼には、これまで海とともに生きてきた長い歴史と伝統があります。海と生きてきた多くの先人たちの工夫と努力、誇りがあります。そして多くの人たちが、これからも気仙沼の宝を大切にしながら、未来に向かい、互いの知恵と力を合わせて海とともに生きていこうという大きな夢と志を抱き、挑戦しています。気仙沼の人たちの根っこにはいつも「共に生きる海」「未来へとつなげる海」があるのかもしれませんが。

この副読本を通し、深く考えるために

この海洋教育副読本は、気仙沼で育ち、気仙沼を学ぶあなたが、『海と生きる』のはなぜだろう、『海と生きる』とはなんだろう、これからも『海と生きる』ためにどうすればよいのだろうなど、ふだん当たり前のように目にしている海を見つめ直し、自分なりの「問い」をもって海に向き合いながら、海について深く学び、海と人とのつながりの意味を考えていくためのガイドブックです。

海の仕組みと海の今の姿、海の役割と恵み、地域の海と世界の海など、いろいろな視点から海を見つめ、海と出会ってみましょう。そして、海を通して自分と友達の学びをつないでみましょう。そのことを通じて、『海と生きる』気仙沼の未来を、どのように共に描くかを考えましょう。「海とともに生きる」こと、そして気仙沼で「人びととともに生きる」こと。これらを見つめ、考えることは、あなた自身の生き方とも向き合うことにつながります。

海と気仙沼、そしてあなた自身について、他の誰でもないあなた自身の問いと答えを探しに行きましょう。



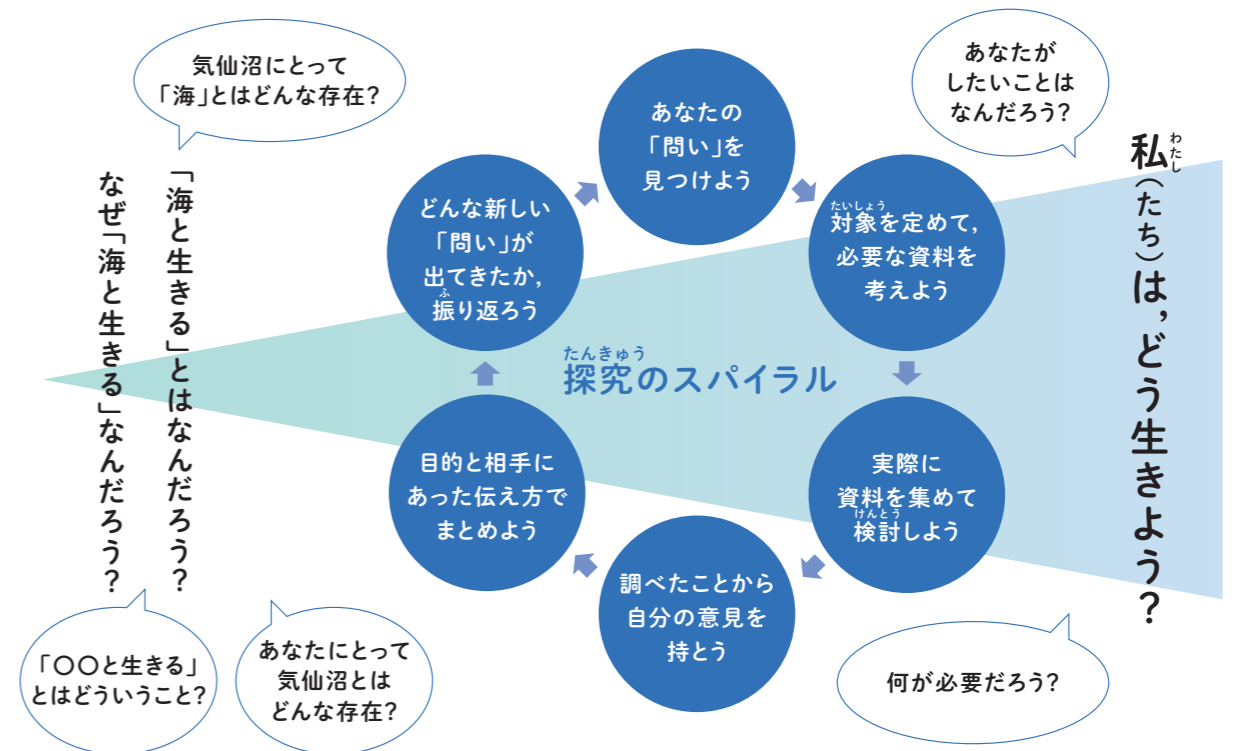
カツオの初水揚げに活気づく気仙沼市魚市場

●この副読本のしくみ

この副読本の中身は、それぞれの章の内容が互いにつながっています。どの章からでも学び始めることができ、すべての章やワークを学ぶ必要はありません。章やワークを見るときには、特に関わりの深い章を示したガイドも手掛かりに、より全体的な視点を持つことにチャレンジしましょう。

また、どの章・どのワークも、「海に親しむ・知る・利用する・守る」という大きな4つの海洋教育のコンセプトとさまざまなやり方でつながっています。各ワークには、4つのコンセプトのうち特にかかわりの深いものを示していますが、これに限られるわけではありません。ワークを行うときや発展の際の手掛かりにしながら、学びを進めていきましょう。

●図表「あなたの「問い」を探究し、深く考えるために」



「海と生きる」とはなんだろう、なぜ「海と生きる」なんだろう、といった大きな問いは、探究のスパイラルとつながっています。あなたの探究は、大きな問いに向き合うための大切な手がかりです

●ワーク活用のポイント

- ・調べてみよう、考えてみよう、探してみよう
→授業で学んだことを活用して、日常で疑問に思ったことを生かして、本やインターネットを活用して、実験や観察をとおして など
- ・探してみよう、やってみよう、聞いてみよう
→学校で、家庭で、地域で、友達と、家族と、地域の人と、専門の人と など